

瑞穂市農産物直売所 実験研究中間報告書

平成 21 年 7 月 2 日

瑞穂市農産物直売所実験研究委員会

委員長 伊 藤 義 孝

1. 販売する農産物の生産量の確保について

出荷登録者数について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

野菜類の出荷量及び品目数について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

野菜類以外の出荷量について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

現段階における販売物品の確保について・・・・・・・・ P 3

仕入品について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4

2. 生産から直売までの運営のシステム化について

出荷から販売に至るまでの運営システムについて・・・・・・・・ P 4

出荷される野菜等の情報収集について・・・・・・・・ P 5

販売データの活用について・・・・・・・・ P 5

3. 消費者のニーズに即した販売等について

消費者ニーズの把握について・・・・・・・・ P 5

商品の規格統一について・・・・・・・・ P 6

4. 民間運営による安定運営について

消費者の動向について・・・・・・・・ P 6

売上額等について・・・・・・・・ P 6

運営の安定化について・・・・・・・・ P 7

5. 現状における課題

今後の運営形態について P 8

柿・梨・いちごの各農業振興団体との出荷調整 P 8

野菜等の供給力の増強 P 8

総合的な販売戦略の策定 P 9

実験販売の継続 P 9

6. 中間報告の最後に P 9

資料 1 月別販売点数 P 10

資料 2 月別売上点数ランキング P 13

資料 3 月別売上額一覧 P 16

瑞穂市農産物直売所実験研究中間報告書

瑞穂市長 堀 孝 正 様

平成 20 年度及び平成 21 年度「農産物直売所販売実験事業委託」において受託しました実験研究内容につきまして、平成 21 年 5 月末現在での状況を中間報告として下記のとおりご報告します。

記

1. 販売する農産物の生産量の確保について

出荷登録者数について

平成 20 年 5 月 31 日（土）に「農家全体説明会」を開催し、出荷登録者を募集したところ、締切日である 7 月 31 日までに 66 名（団体を含む）の出荷者登録がありました。

その後も、順調に出荷登録者が増加し、同年 10 月には 80 名を超える事ができ、平成 17 年 11 月に生産者に対して行われたアンケートで出荷希望と回答した人数を超えました。

平成 20 年度末には 93 名（団体を含む）となりましたが、平成 20 年 11 月以後、新規出荷登録の増加が鈍化すると共に、脱退される生産者の方もおり、平成 21 年 6 月末現在における出荷登録者数は 94 名（団体を含む）となっております。

この人数は「平成 17 年度 農産物販売所調査研究委託報告書」に示された、安定経営に必要な最低限の人数（200 名）の約半数程度に留まっている事から、今後も出荷者の確保に力を注ぐ必要があります。

特に柿・梨・いちご等の各農業振興団体の意見を伺いながら、生産者のお荷登録にご協力いただけるように努力する事が必要であると思います。

しかしながら、仮設テントによる販売では、食品衛生法で販売許可が必要な食品は全て販売することができず、販売できる食品に制限があるため、加工品等を中心に水産物や惣菜等の生産者は出荷登録をしても出荷できる物が少ないため、出荷登録に魅力を感じていない可能性があります。

また、4 月・5 月の仮設テント内の暑さは当初の想像を遥かに越えるものであったため、野菜を含めた生鮮食品を販売する場所として、生産者に支持されていない事も考えられます。

したがって、常設の店舗による販売となった場合については、出荷登録者が増加すると思われます。さらに、直売所の運営団体が法人化され、瑞穂市から独立し、独自の販売戦略等によって商品の販売力を着けた場合については、さらに多くの出荷登録者を確保する事ができると思います。

野菜類の出荷量及び品目数について

野菜を含めた農産物及び加工品等全ての商品の出荷量につきましては、小規模商店用のPOSレジシステムを採用したため、正確な出荷量を把握する事ができませんが、販売点数等を参考におおよその出荷量を把握する事が可能です。

そこで、月別販売点数一覧(資料 1-1)を見ると平均して約 3,000 点程度を、また、月別販売点数一覧(日割・資料 1-2)を見ても 1 日約 260 点程度を売り上げています。よって、ある一定水準までは順調に出荷量を確保できていると思われます。また、一般的に野菜の生産が落ち込む時期に、ある程度野菜の出荷が期待できる生産者(中・大規模生産者を除く。)も 10 名程度おります。従いまして、現状においては(開店 1 年未満である事や、仮設テントによる実験販売であることを含む。)ある一定の評価ができる出荷量を確保する事ができたと考えます。

しかしながら、独立運営をするためには、現在の出荷量では到底足りません。よって、出荷登録者を増やすと共に、売れ筋商品の情報や栽培方法等の指導等生産者に対する支援が必要になると考えます。

品目について見てみると、開店当初の 9 月では 32 品目であったのに対し、翌年 5 月には約 1.7 倍の 55 品目に増加しており、消費者に馴染みの深い野菜類は店頭で並んでいると思われます。常設の店舗となった場合には常時 50 品目程度の野菜が販売できるように、生産者に対する情報提供や支援策が必要になると考えます。

月別出荷品目数

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
野菜類	32	48	53	33	35	42	39	43	55	42.2

野菜類以外の出荷量について

野菜類以外では、くだもの類・花木類・加工品類が多く出荷されています。くだもの類では、瑞穂市特産の柿・梨・いちごが圧倒的に多く、これにいちじくが続きます。しかし、瑞穂市で生産されるくだもの類の品目数が少ないため、季節によって、くだもの類の出荷量にばらつきがあります。また、柿・梨・いちごについては、対外的にも生産地として知られていますが、直売所に出荷される量が予想より下回っております。これは、柿・梨・いちごの各生産者団体

との出荷に関する調整がうまく出来なかった事が原因です。今後、常設の店舗になった場合には、各生産者団体との調整を粘り強く行っていくことが必要となります。

くだもの類出荷数一覧

品目	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
いちご	0	0	0	95	176	482	526	1,787	2,369	5,435
いちじく	289	237	61	1	0	0	0	0	0	588
オレンジ	0	0	0	0	0	40	7	8	0	55
キウイフルーツ	0	0	0	0	0	8	2	41	9	60
さくらんぼ	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31
すだち	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12
はっさく	0	0	0	0	0	53	63	0	0	116
みかん	0	0	3	40	32	22	5	0	0	102
レモン	0	0	0	22	10	7	0	0	0	39
柿	0	303	389	98	0	0	0	0	0	790
甘夏みかん	0	0	0	0	8	7	0	48	74	137
栗	21	0	0	0	0	0	0	0	0	21
梨	385	21	0	26	0	0	0	0	0	432
合計	695	573	453	282	226	619	603	1,884	2,483	7,818

次に花木類についてですが、3月以後急激に増加し、その後も徐々に増加しています。開店当初の9月では、総売上点数の1割にも満たなかったものが、翌年5月には約30%を占めるまでになりました。これは、春になって花苗・種の売上が急激に伸びたこと、及び直売所が出来たことによって、生産者が野菜を作ろうという意欲が湧き、野菜苗を多く購入されたことによるものであると思われます。

しかし、現状の仮設テントでの実験販売では、売り場に限界があり、これ以上花木類の増加は難しいと思われます。常設の店舗となった場合は、野菜に次ぐ売れ筋商品であることを考え、売り場のレイアウトを工夫する必要があると思います。

次に加工品類ですが、加工品は年間を通して安定した売上点数ですが、仮設テントでの販売では、食品衛生法上の販売許可が下りない品物が多くあり、今回の実証実験では、データ不足であることは否めません。

しかし、品目数では10種類程度しかない加工品類ですが、売上額に占める割合は10%~20%程度あり、隠れた人気商品です。この加工品類を、野菜類・花木類に次ぐ第3の売れ筋商品と考え、販売強化に力を入れる事が必要であると思います。今後、常設の店舗となった場合は、店舗と共に加工施設を併設し、加工品の研究・開発を行い、商品化していく事が必要になると思います。

現段階における販売物品の確保について

今回の実験販売においては、加工品類を除けば、おおよそ満足のいく販売物

品の量を確保することが出来たと思います。また、徐々に販売品目数が増加しております。さらに、畜産品や水産品、お米等も加わり市内で生産されている農産物だけでも十分に魅力的な店舗を展開できる素地はあり、今後に期待が持てる状況だと思えます。

しかし、現状では収益を上げるには程遠い状況であるのも確かです。今後、常設の店舗となり、収益を上げるためには、野菜類・くだもの類・花木類・加工品類を4大売上品目と認識し、この4大売上品目を中心に、瑞穂市の特色としてどのような品揃えにするのか、また、鮎を中心とした水産品の販売方法に工夫を凝らせないか等をよく検討し、消費者から支持される直売所となることによって、販売物品を確保していく必要があると思えます。

仕入品について

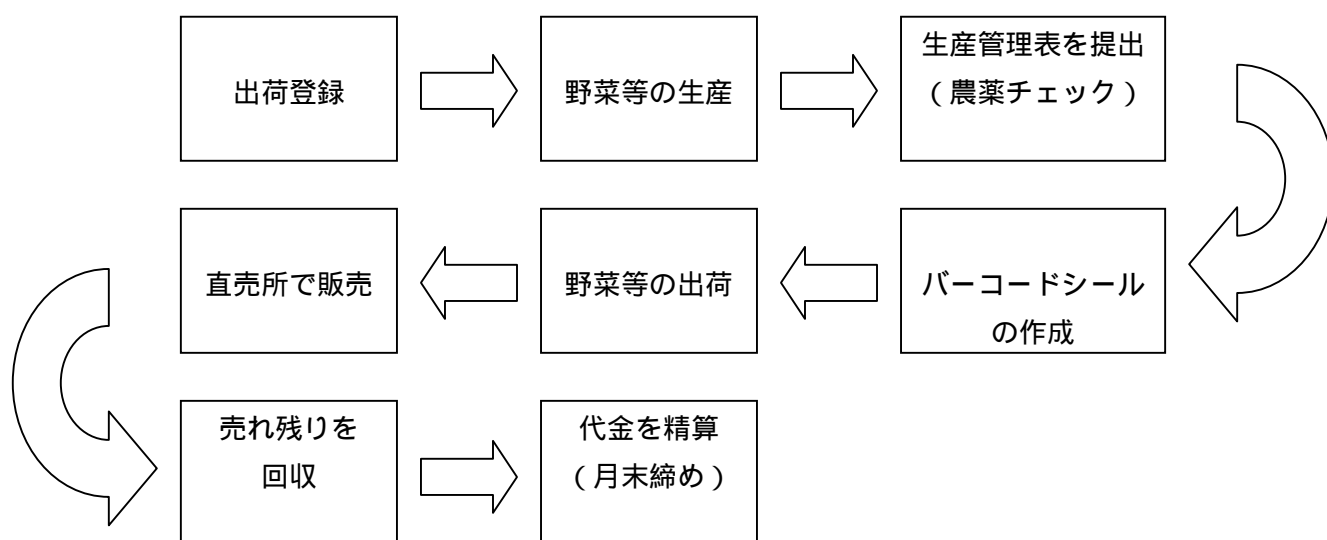
現在は、生産者が出荷出来そうも無く、消費者が求めるものを厳選して野菜や漬物類の仕入品を決めています。この仕入は、消費者の利便を考えるとやむを得ないと思えます。また、常設の店舗となった場合には、牛肉や豚肉等の畜産品や瑞穂市近郊で生産された加工品等は必要なものであると思えます。

しかし、仕入をする場合にはポリシーを定め、直売所にふさわしい品を選ぶように心がける必要があると思えます。

2. 生産から直売までの運営のシステム化について

出荷から販売に至るまでの運営システムについて

出荷から販売に至るまでの運営は以下のような仕組みで行っております。



開店当初は、小規模商店用のPOSレジシステムを導入したため、生産者自身でバーコードシールの作成ができなかったことをはじめ、出荷に至るまでの流れの中で混乱が見られました。平成21年6月以降については、POSレジシステムを変更したため、バーコードシールの作成については混乱も少なくなっており、現在では順調に稼働しています。

しかし、生産者自身でシールを作成できることから、出荷時に生産管理表で農薬のチェックを受ける前にシールを作成してしまい出荷する生産者もみられます。消費者との信頼を壊さないためにも、出荷前に生産管理表での農薬チェックを直売所として徹底する必要があると思います。

出荷される野菜等の情報収集について

現状においては、出荷される野菜等の情報収集については、組織的に行っておりません。しかしながら、前もって、出荷される野菜の出荷量や出荷品目について情報収集をしておく、消費者に対する野菜の紹介や食べ方提案などのポップづくりが前もってでき、品切れの場合にも消費者に対して次回入荷予定日を知らせることができ、結果、消費者を逃さないことに繋がります。また、仕入品を地元から出荷される荷物と重ねないための参考となります。

組織的に出荷される野菜等の情報収集には、出荷カレンダーを各生産者に記入し提出してもらう事が必要となります。この出荷カレンダーの作成方法や記入方法及び活用方法については、今後の研究課題となります。

販売データの活用について

まだ、開店して1年未満である瑞穂市農産物直売所では、過去の販売データを蓄積している最中です。現状においては、販売データを活用することは難しい状況であります。

しかし、今後、常設の店舗となった場合には、過去の販売データを活用して、作物の作付けや出荷時期のアドバイス等の出荷者支援をする必要があると思います。この出荷者支援をすることによって、長期にわたって、人気野菜等を店頭に並べることができ、収益の増加に繋がると思います。よって、販売データを分析しアドバイスする人材の確保が必要になってくると思います。

3. 消費者のニーズに即した販売等について

消費者ニーズの把握について

消費者のおおよそのニーズについては、購入行動を見ると把握する事ができます。月別の売上個数のランキングは資料2にまとめました。各月とも上位1

0位までにランキングされる商品は、地元で生産された新鮮な野菜類やくだもの類で手ごろな価格であるものです。また、旬である商品も人気です。したがって、売上商品から読み取れる消費者のニーズは「直売所らしい商品を求める。」という事に尽きると思います。しかし、前年同期のデータが無いので、個々の商品についての詳細なデータ分析をする事はできません。よって、今後も実験販売を続けて、データの収集をする必要があると思います。

商品の規格統一について

生産者自身が自分で商品価格を決定し販売することができる事が直売所です。しかし同じ品目を複数の生産者が出荷するため、販売価格や量目は個人による差が出てきます。

同じ販売スペースの中で質的にほぼ同程度のものが違う価格で販売されているのが直売所の特徴ですが、あまりに極端なものは望ましくありません。

ある程度の規格は、生産者間での申し合わせ事項として必要になると思われます。

4. 民間運営による安定運営について

消費者の動向について

販売が始まった当初、買い物に来る方は巢南地区の生産者（出荷者）が多数と思われました。2月にとった来場者アンケートでは、多くが瑞穂市のなかでも巢南地区在住となっていました。

しかし、4月から営業日を増やし、折り込みチラシも入れた効果があり、レジを通る購入者の居住地は明らかに穂積地区やその他近隣地区が飛躍的に増えていると思われます。

市街化しており大型スーパーや量販店で、食料品を購入することが多い穂積地区の方々にも、鮮度の高い地元の安心安全な食材を提供する直売所が徐々に認められているものと思われます。

売上額等について

9月の開店当初は、入場制限をしなければならぬ程、来場者があり、110万円を超える売上額がありましたが、寒さが厳しさを増すにつれて売上額及び購入者数も減少し、1月には売上額が50万円を下回る状況となりました。しかし、2月以後は急激に持ち直し、4月以後は営業日を平日にまで広げた影響で5月には200万円を超える売上がありました。（資料3-1参照）

この売上額の推移と出荷品目の推移を比べると、ほぼ一致しており、品薄と

なる冬の時期の売上額が極端に下がることが分かります。

ただ、1日平均の売上額や客単価（資料 3-3）を見ると2月をピークに減少しており、詳細な分析が必要であると思います。

運営の安定化について

民間運営による安定運営については、「平成17年度 農産物販売所調査研究委託報告書」にも示されているとおり、最低でも年間2,000万円の収入が必要であると思います。つまり、必要な年間売上額は最低2億円となります。（販売手数料が10%の場合）現実には5%の消費税が課税されますので、2億円以上の売上が必要となります。

今回の実験販売における開店後9ヶ月間の売上額は約1,000万円です。金額的には、全く必要額に届いていませんが、仮設テントによる販売であることで食品衛生法上の法規制や期間限定の実験販売であるため、生産者が出荷を見合わせる等がある中で、この売上金額は、実験販売がある程度成功していると考えられると思います。

また、（財）都市農山漁村交流活性化機構が編集した「農産物直売所運営のてびき」によると、「標準的な市場規模は人口1万人あたり1億円」と記されています。これを瑞穂市に当てはめると市場規模は5億円となり、近隣の市町を考えると実際の市場規模はさらに増えると考えられます。

さらに、同書は農産物直売所の売上を伸ばす要素として以下の3点を挙げています。

- ・ 都市との距離
- ・ 果樹など売上が伸びる商品の有無
- ・ 野菜の供給力

瑞穂市の現状を考えると、南部を中心に依然として人口流入が続いており、県都岐阜市や大垣市にも近く、柿を中心に梨やいちご等の果樹栽培も盛んであり、野菜の供給力もある程度見込めます。

したがって、店舗の立地や農産物加工施設や農村レストラン等の併設施設の有無等の条件にもよりますが、2億円程度の売上は十分に可能であると思います。

5. 現状における課題

現状において、常設店舗における民間による安定運営をするための課題は数多くありますが、大きな課題は以下の5点であると思われます。

今後の運営形態について

現状の実験研究委員会は、何も無いところからの立ち上げであったため、各種農業団体からの代表者の集まりで組織されています。それに伴い、実験研究委員会の事務は市役所が担当しています。立ち上げ当初は、各種農業団体や「Aぎふとの調整が必要であったため、非常によく機能していました。

しかし、店舗運営がある程度、軌道に乗った現段階においては、「経営を担う」という新たな役割が求められています。また、売上増に伴い、各種税務申告等の新たな事務も発生することが予想されます。

よって、今後は、常設店舗の開設に向けて、売上データや消費者の動向を見極め、生産者にいち早く情報を伝え、野菜等の供給力を向上させる組織、また、必要な事務処理を即座に行える組織、いわゆる「経営を担う」ことができる組織に作り変える必要があります。そのためには専従の職員も必要となります。

また、具体的にどのような組織にするかも課題となります。例えば、生産者が経営の主体となって、専従職員を雇用する方法や生産者が経営の主体となりつつも専従職員を代表者として運営する方法等いくつかの選択肢があります。

今後、瑞穂市の直売所にとって最も良い運営形態はどのような方法であるかを、実験販売を続けながら研究する必要があります。

柿・梨・いちごの各農業振興団体との出荷調整

前述した「農産物直売所運営のてびき」にもあったとおり、柿を中心とした果樹は売上向上の大きなファクターであり、民間による安定運営を図るには、柿・梨・いちごの各農業振興団体の協力が必要不可欠となります。これらの生産者の方々は少品種大量生産型の生産者であることを踏まえ、系統流通の合理性を理解した上で、直売所への出荷に対してもご協力いただけるように配慮をすることが必要であると思います。

野菜等の供給力の増強

野菜等の供給力については、前述しているとおり、冬季は極端に出荷量が少なくなります。また、野菜が多い時期には同じ品目が重なったりして、売れ残ったりしてしまいます。

よって、売上データや消費者ニーズの動向を把握した上で、計画的な生産をすることができるようにするためのシステムを作り上げ、野菜等の供給力を増強する必要があります。

また、生産者が新たな野菜の栽培に取り組むための支援システムも必要であると思います。

総合的な販売戦略の策定

どのような店舗でも立地条件は大変重要であると思いますが、農産物直売所においても同様に重要です。しかし、具体的にどのような販売戦略を打ち出すかによって、必要な立地条件は変わってくると思います。

例えば、中山道をウォーキングする観光客を取り込んで、農産物直売所を一部観光施設化しようと考えれば、中山道沿いでなければなりません。また、地元住民のみを対象に考えるのであれば、地元住民の方々の利便が良い場所を選ぶ必要があると思います。

今後、常設の店舗を建設する場合において、どのようなコンセプトで店舗を作り、どのような経営理念で、店舗を運営するのかが、とても重要であると思います。

実験販売の継続

以上のような、問題を研究・検討するには、8月末日までの実験販売では、データ不足及び検討時間がないので、今後も継続をする必要があります。特に売上データや消費動向の把握、野菜等の出荷量の把握については、引き続き実験販売をすることにより、前年との比較による分析によって、正確な動向が把握できると思います。

6. 中間報告の最後に

ここまで、実験研究委託の内容に沿って中間報告をまとめましたが、それ以外の事柄について、最後にご報告申し上げます。

この農産物直売所は、「いつかは生産したものを自分で値をつけて販売してみたい」という長年抱いてきた生産者の夢の実現の場として、生産者の期待が大きいものがあります。また、日本全国の農産物直売所を成功させた関係者からは、以下のような成果があったと聞いています。

- ・ 農家に嫁いだ女性が農産物直売活動に参加したところ、自ら進んで野菜づくりを始めた。
- ・ 高齢者が参加したら、生きがいを感じてみるみる元気になった。
- ・ 明日売る野菜の袋詰を手伝いながら、中学生の娘が母親に「直売所の権利を譲ってくれれば私が農家を継ぐ」と言った。
- ・ 直売所を開いたら遊休農地がみるみる少なくなった。

瑞穂市においてもこれらの成果を享受し、多少でも生産者の所得向上を目標に農業振興を図っていただきたいと思います。農業振興を図ることは、生産者のためだけではなく、瑞穂市の自然環境や生活環境を守ることにつながり、市民全体の利益に繋がると思います。

また、農産物直売所については、一方の生産者の利益ばかりが強調されがちではありますが、決してそうではありません。日本各地で成功している農産物直売所は消費者から支持を得ているからこそ成功しているのです。

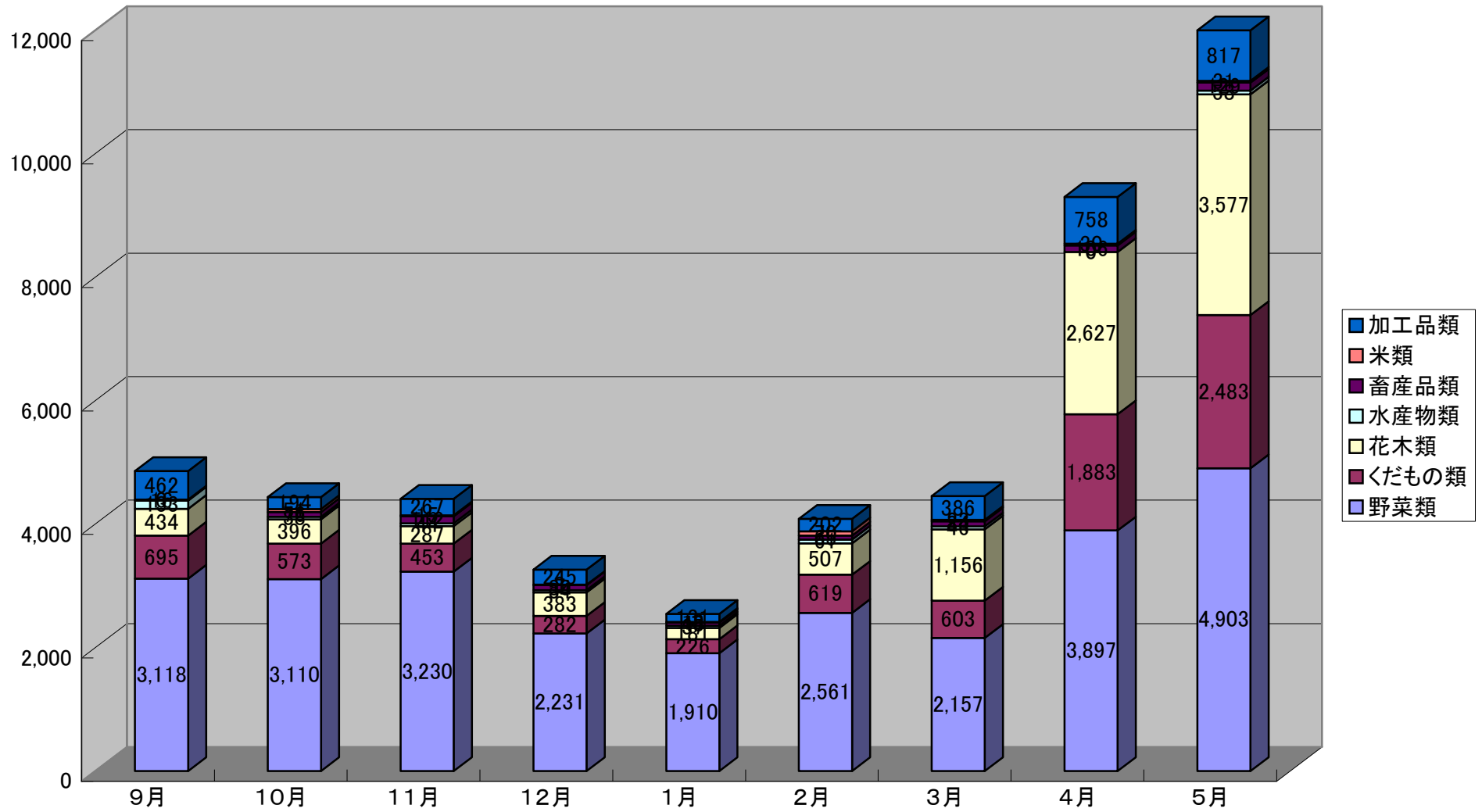
中国製冷凍餃子の事件や産地偽装事件をきっかけに安心・安全な食品を求める方々が増えています。市民の方々に鮮度の高い地元の安心安全な食材を提供することは市民の健康管理にもつながるため、直売所は非常に重要な場所となると考えられます。

また、農産物直売所は消費者と生産者との交流の場や消費者が自分の食べる食材の生産現場に近づく場でもあります。

よって、農産物直売所の設置については、生産者のみの利益のためではなく、市民全体の利益につながるものであることを、ご理解いただき農産物直売所の設置に向けて前向きな取り組みをいただきますようお願い申し上げます。

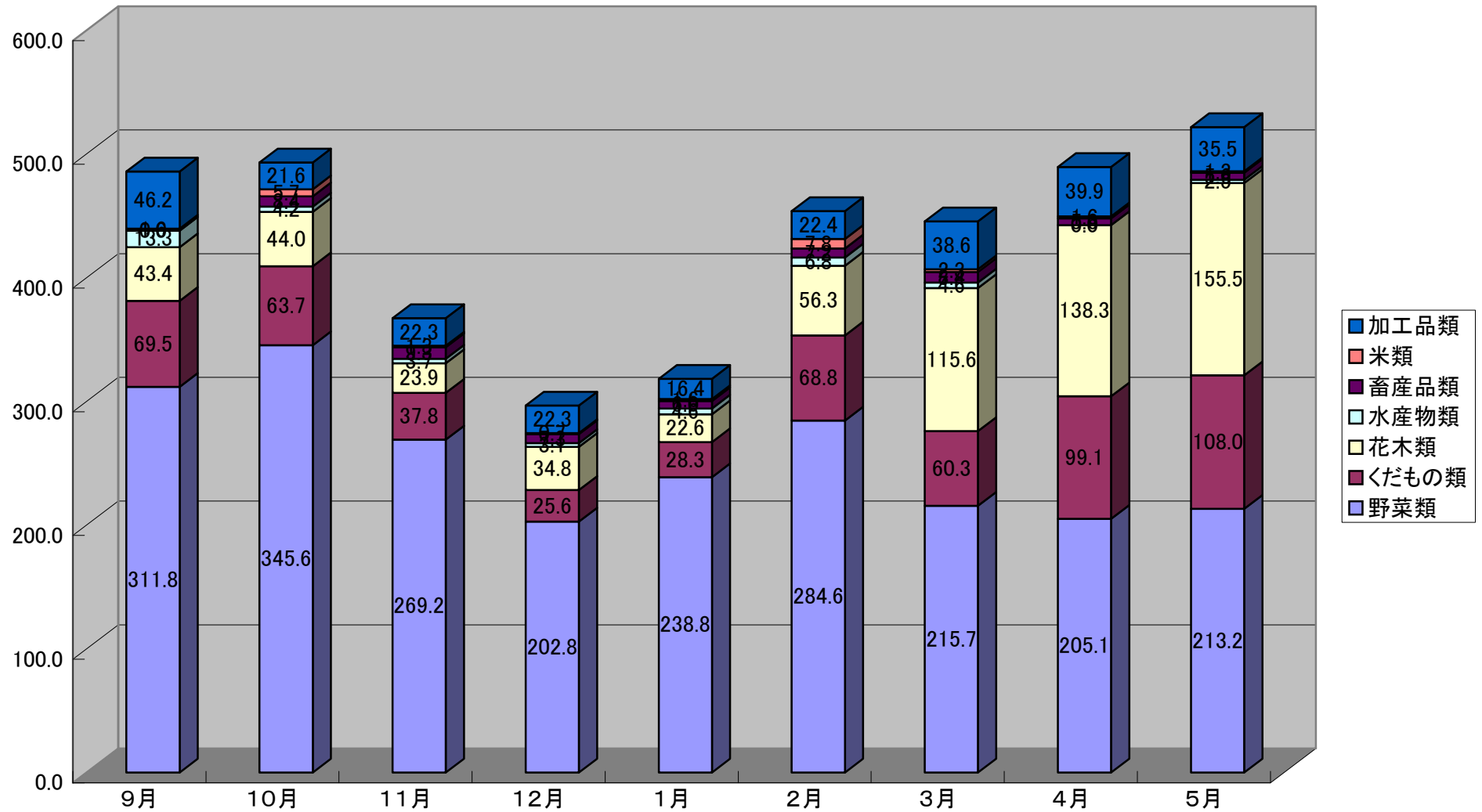
資料1-1

月別販売点数一覧



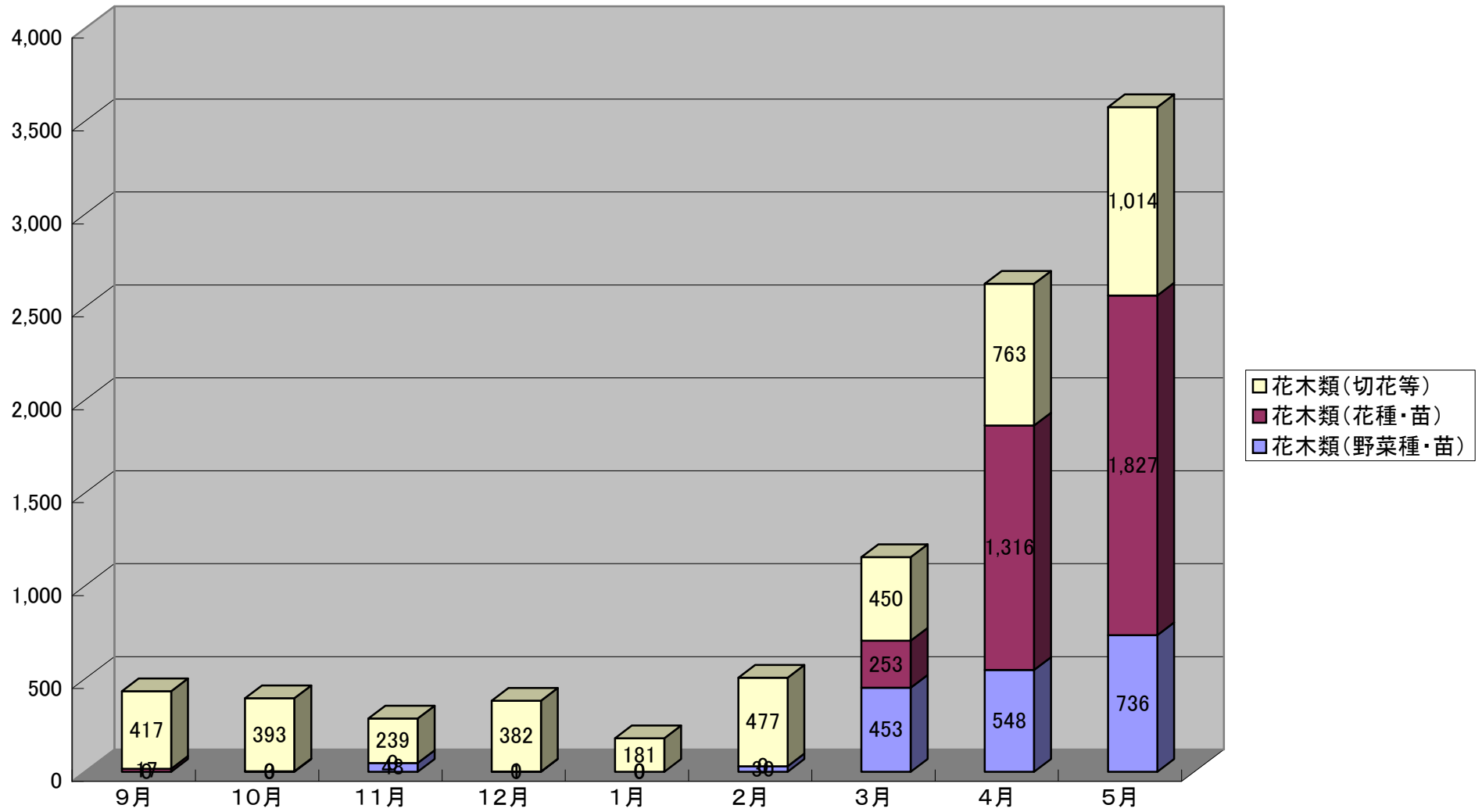
資料1-2

月別販売点数一覧(日割)



資料1-3

月別販売点数一覧(花木類)



資料2-1

9月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	きのこ	813個
第2位	胡瓜	425個
第3位	梨	385個
第4位	さつま芋	329個
第5位	いちじく	289個
第6位	里芋	232個
第7位	鉢花	228個
第8位	パン	186個
第9位	玉葱	165個
第10位	切りバラ	151個
第11位	茄子	140個
第12位	ミョウガ	135個
第13位	ジャム	121個
第14位	馬鈴薯	120個
第15位	空心菜	101個
第16位	ささげ	85個
第17位	枝豆	82個
第18位	柿いろいろ	61個
第19位	ねぎ	59個
第19位	牛蒡	59個
第21位	南瓜	50個
第22位	ベーめん	49個
第23位	さつまいもつる	45個
第24位	ひらき干し鮎	43個
第25位	鮎つかみ取り	39個
第26位	切花	38個
第27位	きゅうり	31個
第27位	小松菜	31個
第29位	冬瓜	30個
第30位	銀杏	27個
第30位	冷凍鮎	27個
第32位	水菜	25個
第33位	モロヘイヤ	24個
第33位	千石豆	24個
第33位	活鮎	24個
第36位	柿じゅり	22個
第37位	栗	21個
第38位	さやいんげん	17個
第38位	ししとう	17個
第38位	ピーマン	17個
第38位	花苗	17個
第42位	まな板	11個
第43位	はつしも	10個
第43位	梅干	10個
第45位	にら	9個
第46位	落花生	8個
第47位	ひとめぼれ	6個
第48位	ほうれん草	5個
第49位	サラダセット	4個
第50位	オクラ	3個
第50位	チンゲン菜	3個
第50位	柚子	3個
第53位	柿茶	2個

10月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	きのこ	591個
第2位	柿	303個
第3位	枝豆	296個
第4位	ねぎ	257個
第5位	いちじく	237個
第6位	里芋	217個
第7位	銀杏	152個
第8位	小松菜	147個
第9位	鉢花	145個
第10位	さつま芋	140個
第11位	切花	137個
第12位	胡瓜	128個
第13位	ほうれん草	122個
第14位	水菜	115個
第14位	かすり豆	115個
第16位	切りバラ	111個
第17位	トマト	105個
第18位	茄子	104個
第19位	パン	84個
第20位	たまご	76個
第21位	空心菜	51個
第22位	玉葱	43個
第22位	とうもろこし	43個
第24位	冬瓜	42個
第25位	キャベツ	36個
第26位	ベーめん	35個
第26位	モロッコ菜豆	35個
第28位	冷凍鮎	30個
第29位	ピーマン	28個
第29位	長芋	28個
第29位	古代米(黒)	28個
第32位	落花生	27個
第33位	切干大根	26個
第34位	ひとめぼれ	23個
第35位	梨	21個
第35位	馬鈴薯	21個
第35位	生姜	21個
第38位	さつまいもつる	20個
第38位	からし菜	20個
第40位	ジャム	19個
第41位	オクラ	16個
第41位	大根	16個
第43位	チンゲン菜	15個
第43位	大根菜	15個
第45位	柿いろいろ	14個
第45位	かぶら菜(すぐり菜)	14個
第47位	春菊	13個
第48位	まな板	12個
第48位	いんげん	12個
第48位	ブロッコリー	12個
第48位	すだち	12個
第52位	南瓜	10個
第52位	にら	10個
第54位	千石豆	9個
第55位	ミョウガ	8個
第55位	ミニトマト	8個
第55位	五月豆	8個
第55位	小豆	8個
第59位	みぶ菜	7個
第59位	むかご	7個
第61位	モロヘイヤ	6個
第62位	ひらき干し鮎	4個
第62位	活鮎	4個
第62位	蕪	4個
第65位	ししとう	3個
第65位	花苗	3個
第65位	オータムポエム	3個
第68位	柿じゅり	2個
第68位	柿茶	2個
第68位	わけぎ	2個

11月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	きのこ	718個
第2位	柿	389個
第3位	ほうれん草	298個
第4位	ねぎ	245個
第5位	里芋	197個
第6位	銀杏	186個
第7位	大根	168個
第8位	白菜	134個
第9位	たまご	112個
第10位	ジャム	109個
第11位	蕪	101個
第12位	春菊	92個
第13位	水菜	91個
第14位	さつま芋	90個
第15位	切りバラ	87個
第16位	パン	85個
第17位	トマト	84個
第18位	切花	81個
第19位	五月豆	76個
第20位	鉢花	71個
第21位	小松菜	69個
第22位	キャベツ	65個
第23位	いちじく	61個
第24位	かすり豆	53個
第25位	枝豆	51個
第26位	ブロッコリー	50個
第27位	胡瓜	48個
第27位	野菜苗	48個
第29位	漬物	45個
第30位	落花生	44個
第31位	馬鈴薯	43個
第32位	茄子	41個
第33位	小豆	31個
第34位	人参	29個
第35位	冷凍鮎	24個
第36位	モロッコ菜豆	20個
第37位	柿いろいろ	16個
第37位	柚子	16個
第39位	空心菜	15個
第40位	チンゲン菜	13個
第40位	南瓜	13個
第40位	菊芋	13個
第43位	冬瓜	12個
第43位	活鮎	12個
第43位	わけぎ	12個
第46位	玉葱	10個
第46位	カリフラワー	10個
第46位	レタス(結球)	10個
第49位	とうもろこし	9個
第49位	はつしも	9個
第51位	ピーマン	8個
第51位	ずいき	8個
第51位	正月菜	8個
第51位	鮎甘露煮	8個
第55位	さやいんげん	7個
第55位	菜花	7個
第57位	ベーめん	6個
第57位	いんげん	6個
第59位	古代米(黒)	5個
第59位	生姜	5個
第59位	乾ずいき	5個
第62位	まな板	4個
第62位	オータムポエム	4個
第64位	長芋	3個
第64位	からし菜	3個
第64位	みかん	3個
第67位	ミニトマト	2個
第67位	むかご	2個
第67位	ヤーコン	2個
第67位	うこん	2個
第71位	さつまいもつる	1個
第71位	カラーピーマン	1個
第71位	大豆	1個
第71位	もち米	1個

資料2-2

12月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	きのこ	391個
第2位	ほうれん草	219個
第3位	鉢花	194個
第4位	白菜	176個
第5位	銀杏	174個
第6位	ブロッコリー	169個
第7位	ねぎ	164個
第8位	里芋	155個
第9位	大根	150個
第10位	馬鈴薯	107個
第11位	柿	98個
第12位	切花	97個
第13位	いちご	95個
第14位	たまご	80個
第15位	しめ縄	70個
第16位	トマト	69個
第17位	切りバラ	68個
第18位	甘干し柿	67個
第19位	正月菜	66個
第20位	蕪	60個
第20位	漬物	60個
第22位	小松菜	59個
第23位	さつまい	56個
第24位	みかん	40個
第25位	水菜	35個
第26位	黒豆	32個
第27位	梨	26個
第28位	レモン	22個
第29位	ジャム	21個
第29位	レタス(結球)	21個
第31位	くわい	20個
第32位	葉ぼたん	19個
第33位	大豆	18個
第34位	柚子	17個
第35位	柿いろいろ	16個
第36位	牛蒡	13個
第37位	人参	11個
第37位	冷凍鮎	11個
第37位	鮎甘露煮	11個
第40位	キャベツ	10個
第40位	ヤーコン	10個
第42位	パン	8個
第43位	小豆	7個
第43位	もずくかに	7個
第45位	活鮎	5個
第45位	もち米	5個
第47位	菊芋	4個
第47位	ウラジロ	4個
第49位	チンゲン菜	3個
第49位	南瓜	3個
第49位	冬瓜	3個
第49位	はつしも	3個
第49位	まな板	3個
第49位	長芋	3個
第55位	玉葱	2個
第55位	カリフラワー	2個
第55位	菜花	2個
第58位	いちじく	1個
第58位	野菜苗	1個

1月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	ブロッコリー	356個
第2位	きのこ	354個
第3位	いちご	176個
第4位	ほうれん草	161個
第5位	ねぎ	126個
第6位	白菜	118個
第7位	里芋	90個
第8位	馬鈴薯	89個
第9位	鉢花	88個
第10位	胡瓜	84個
第11位	大根	81個
第12位	切りバラ	68個
第12位	甘干し柿	68個
第14位	トマト	51個
第15位	たまご	48個
第16位	人参	44個
第17位	大豆	34個
第18位	みかん	32個
第19位	正月菜	28個
第19位	鮎甘露煮	28個
第21位	さつまい	27個
第21位	水菜	27個
第23位	切花	25個
第24位	銀杏	23個
第25位	キャベツ	22個
第26位	小松菜	21個
第26位	ジャム	21個
第28位	玉葱	19個
第28位	菜花	19個
第30位	漬物	16個
第31位	春菊	14個
第31位	大根菜	14個
第33位	蕪	13個
第33位	にんじん	13個
第35位	金柑	12個
第36位	黒豆	11個
第36位	柚子	11個
第36位	チンゲン菜	11個
第36位	かぶら菜(すぐり菜)	11個
第40位	レモン	10個
第40位	切干大根	10個
第42位	甘夏みかん	8個
第42位	よもぎいろいろ	8個
第44位	レタス(結球)	7個
第44位	菊芋	7個
第46位	牛蒡	6個
第46位	古代米(黒)	6個
第48位	柿いろいろ	5個
第48位	冷凍鮎	5個
第48位	はつしも	5個
第51位	ラディッシュ	4個
第52位	活鮎	3個
第53位	もち米	2個
第54位	ヤーコン	1個
第54位	まな板	1個
第54位	枝豆	1個
第54位	柿茶	1個
第54位	鮎つかみ取り	1個
第54位	豆みそ	1個

2月上ランキング

順位	品目	2月
第1位	いちご	482個
第2位	きのこ	420個
第3位	ブロッコリー	409個
第4位	ほうれん草	338個
第5位	鉢花	245個
第6位	ねぎ	235個
第7位	胡瓜	185個
第8位	切花	121個
第9位	トマト	117個
第10位	切りバラ	111個
第11位	よもぎ餅	106個
第12位	大根	103個
第13位	馬鈴薯	98個
第14位	白菜	88個
第15位	里芋	81個
第16位	菜花	69個
第17位	たまご	65個
第18位	小松菜	57個
第19位	はっさく	53個
第20位	水菜	52個
第21位	白もち	42個
第22位	鮎甘露煮	41個
第23位	蕪	40個
第23位	オレンジ	40個
第25位	正月菜	36個
第26位	ジャム	32個
第27位	野菜種	30個
第28位	大豆	24個
第28位	キャベツ	24個
第30位	みかん	22個
第30位	銀杏	22個
第32位	ベーめん	17個
第33位	甘干し柿	15個
第33位	チンゲン菜	15個
第33位	はつしも	15個
第36位	人参	14個
第36位	にんじん	14個
第36位	冷凍鮎	14個
第39位	黒豆	13個
第40位	金柑	12個
第40位	オータムポエム	12個
第42位	柿いろいろ	11個
第43位	切干大根	9個
第43位	レタス(結球)	9個
第43位	もち米	9個
第46位	柚子	8個
第46位	かぶら菜(すぐり)	8個
第46位	ヤーコン	8個
第46位	キウイフルーツ	8個
第50位	春菊	7個
第50位	レモン	7個
第50位	甘夏みかん	7個
第53位	菊芋	6個
第53位	ラディッシュ	6個
第53位	鮎つかみ取り	6個
第56位	乾ずいき	5個
第56位	うこん	5個
第58位	さつまい	4個
第58位	古代米(黒)	4個
第58位	千石豆	4個
第58位	コウサイタイ	4個
第58位	レタス	4個
第58位	切ごぼう	4個
第64位	わさび菜	3個
第65位	大根菜	2個
第65位	豆みそ	2個
第65位	生姜	2個
第68位	玉葱	1個
第68位	よもぎいろいろ	1個
第68位	牛蒡	1個
第68位	高菜	1個

資料2-3

3月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	いちご	526個
第2位	きのこ	477個
第3位	野菜苗	414個
第4位	よもぎ餅	263個
第5位	ブロッコリー	261個
第6位	花苗	253個
第7位	ほうれん草	244個
第8位	鉢花	191個
第9位	切花	190個
第10位	胡瓜	179個
第11位	ねぎ	154個
第12位	里芋	122個
第13位	トマト	92個
第14位	たまご	84個
第15位	ししとう	78個
第16位	菜花	75個
第17位	切りバラ	69個
第18位	はっさく	63個
第19位	大根	62個
第20位	わけぎ	54個
第21位	小松菜	52個
第22位	ジャム	46個
第23位	オータムポエム	44個
第24位	野菜種	39個
第25位	ベーめん	38個
第26位	つくし	36個
第27位	リーフレタス	29個
第28位	水菜	25個
第28位	キャベツ	25個
第30位	冷凍鮎	24個
第31位	春菊	22個
第32位	わさび菜	19個
第33位	鮎甘露煮	18個
第34位	柿いろいろ	14個
第35位	馬鈴薯	12個
第35位	白もち	12個
第35位	銀杏	12個
第38位	切干大根	11個
第39位	からし菜	10個
第40位	ヤーコン	8個
第41位	白菜	7個
第41位	オレンジ	7個
第41位	チンゲン菜	7個
第41位	人蔘	7個
第41位	黒豆	7個
第46位	はっしも	6個
第46位	菊芋	6個
第48位	みかん	5個
第48位	もち米	5個
第48位	ラディッシュ	5個
第48位	うこん	5個
第48位	大根菜	5個
第53位	金柑	4個
第53位	鮎つかみ取り	4個
第55位	コウサイタイ	3個
第55位	豆みそ	3個
第55位	柿じゅり	3個
第55位	サニーレタス	3個
第55位	ふだん草	3個
第60位	キウイフルーツ	2個
第60位	乾ずいき	2個
第60位	レタス	2個
第60位	高菜	2個
第60位	まな板	2個
第65位	蕪	1個
第65位	柿茶	1個
第65位	たらの芽	1個

4月上個数ランキング

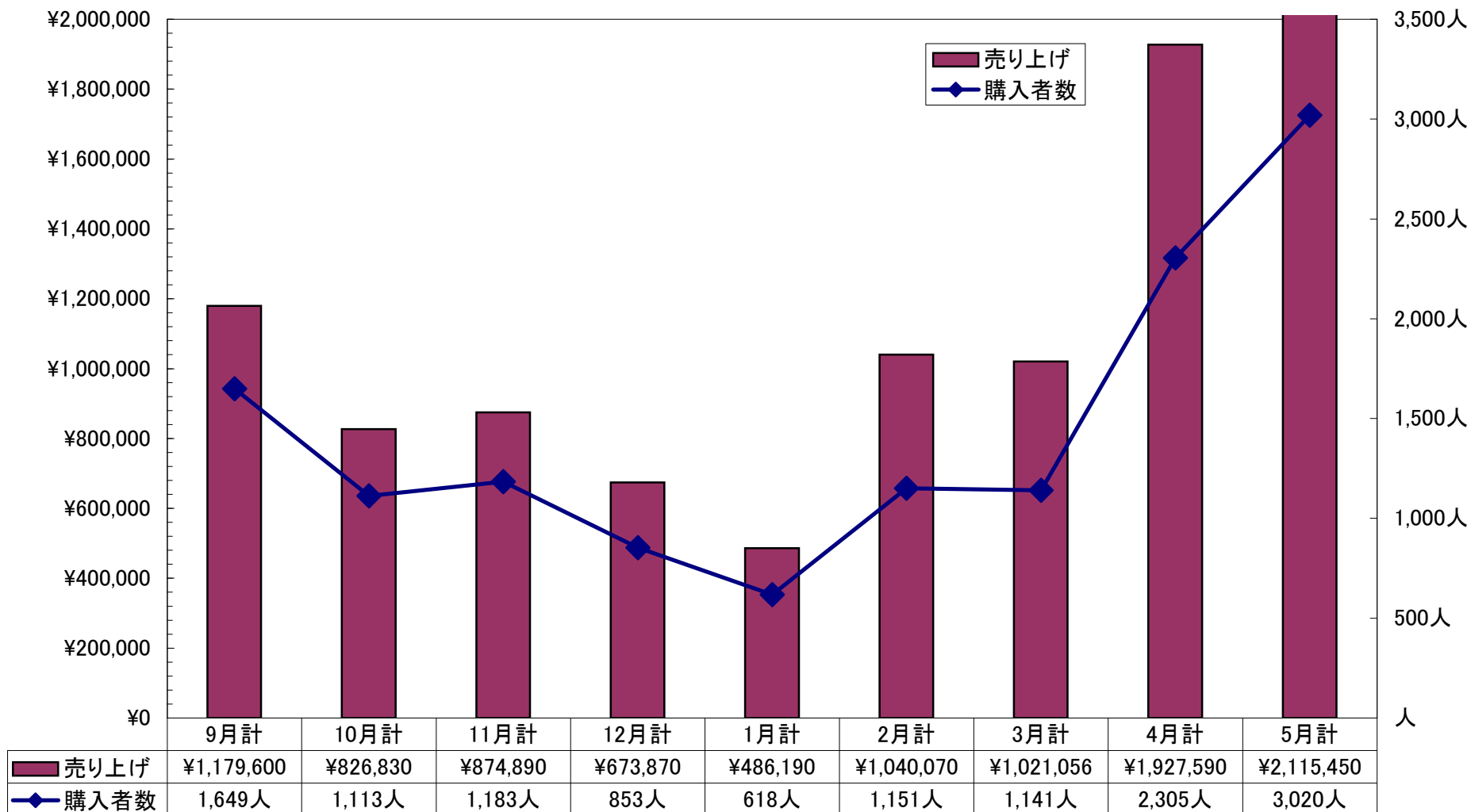
順位	品目	販売個数
第1位	いちご	1787個
第2位	花苗	1310個
第3位	きのこ	761個
第4位	胡瓜	597個
第5位	ほうれん草	492個
第6位	野菜苗	483個
第7位	切花	444個
第8位	トマト	374個
第9位	玉葱	324個
第10位	よもぎ餅	309個
第11位	パン	270個
第12位	鉢花	197個
第13位	わけぎ	178個
第14位	小松菜	131個
第15位	切りバラ	122個
第16位	たまご	106個
第17位	スナックえんどう	84個
第17位	草もち	84個
第19位	大根	73個
第20位	筍	71個
第21位	里芋	66個
第21位	えんどう	66個
第23位	野菜種	65個
第24位	わさび菜	64個
第25位	ししとう	61個
第26位	ふだん草	59個
第27位	リーフレタス	58個
第28位	レタス(結球)	53個
第29位	ねぎ	52個
第30位	甘夏みかん	48個
第31位	さやえんどう	43個
第32位	キウイフルーツ	41個
第33位	水菜	40個
第34位	ジャム	35個
第34位	柿いろいろ	35個
第36位	ブロッコリー	28個
第37位	菜花	27個
第38位	赤唐辛子	23個
第39位	はっしも	22個
第40位	オータムポエム	21個
第41位	ラディッシュ	19個
第41位	ふき	19個
第41位	みつ葉	19個
第44位	たらの芽	17個
第45位	蕪	12個
第46位	春菊	11個
第47位	豆みそ	9個
第47位	サニーレタス	9個
第49位	オレンジ	8個
第49位	もち米	8個
第49位	そら豆	8個
第52位	サラダセット	7個
第53位	柿じゅり	6個
第53位	花種	6個
第55位	からし菜	4個
第55位	ヤーコン	4個
第55位	菊芋	4個
第55位	大豆	4個
第55位	長芋	4個
第60位	ベーめん	3個
第60位	うこん	3個
第60位	まな板	3個
第60位	赤かぶら	3個
第64位	つくし	2個
第64位	大根菜	2個
第64位	生姜	2個
第67位	キャベツ	1個
第67位	キウイコンポート	1個

5月上個数ランキング

順位	品目	販売個数
第1位	いちご	2369個
第2位	花苗	1820個
第3位	胡瓜	785個
第4位	野菜苗	701個
第5位	切花	693個
第6位	トマト	471個
第7位	きのこ	463個
第8位	そら豆	398個
第9位	大根	383個
第10位	パン	338個
第11位	玉葱	331個
第12位	筍	252個
第13位	鉢花	195個
第14位	さやえんどう	191個
第15位	ほうれん草	182個
第16位	スナックえんどう	180個
第17位	ねぎ	175個
第18位	みょうがほち	171個
第19位	草もち	164個
第20位	キャベツ	140個
第21位	たまご	129個
第22位	切りバラ	126個
第23位	レタス(結球)	117個
第24位	小松菜	112個
第25位	甘夏みかん	74個
第26位	活鮎	58個
第27位	えんどう	53個
第28位	ラディッシュ	51個
第29位	大根菜	50個
第30位	ジャム	44個
第31位	ふだん草	41個
第31位	馬鈴薯	41個
第33位	水菜	40個
第34位	にんにく	36個
第35位	野菜種	35個
第36位	リーフレタス	34個
第36位	梅	34個
第38位	ブロッコリー	31個
第38位	五月豆	31個
第38位	さくらんぼ	31個
第41位	鬼まんじゅう	29個
第42位	柿いろいろ	25個
第42位	はっしも	25個
第42位	さつま芋	25個
第45位	ふき	23個
第45位	らっきょう	23個
第47位	チンゲン菜	22個
第48位	よもぎ餅	21個
第48位	サンチュ	21個
第50位	わさび菜	20個
第51位	ししとう	18個
第51位	いんげん	18個
第53位	蕪	15個
第54位	さんとう白菜	13個
第55位	グリーンピース	10個
第56位	キウイフルーツ	9個
第56位	柿茶	9個
第58位	うこん	8個
第58位	にんにくの芽	8個
第60位	豆みそ	7個
第60位	花種	7個
第62位	もち米	6個
第62位	からし菜	6個
第62位	赤かぶら	6個
第62位	枝豆	6個
第62位	茄子	6個
第67位	わけぎ	5個
第67位	大豆	5個
第67位	落花生	5個
第70位	人蔘	4個
第71位	春菊	3個
第71位	サラダセット	3個
第71位	レタス	3個
第74位	菜花	2個
第74位	オータムポエム	2個
第74位	サニーレタス	2個
第74位	長芋	2個
第74位	さやいんげん	2個
第74位	ミニトマト	2個
第80位	赤唐辛子	1個
第80位	キウイコンポート	1個

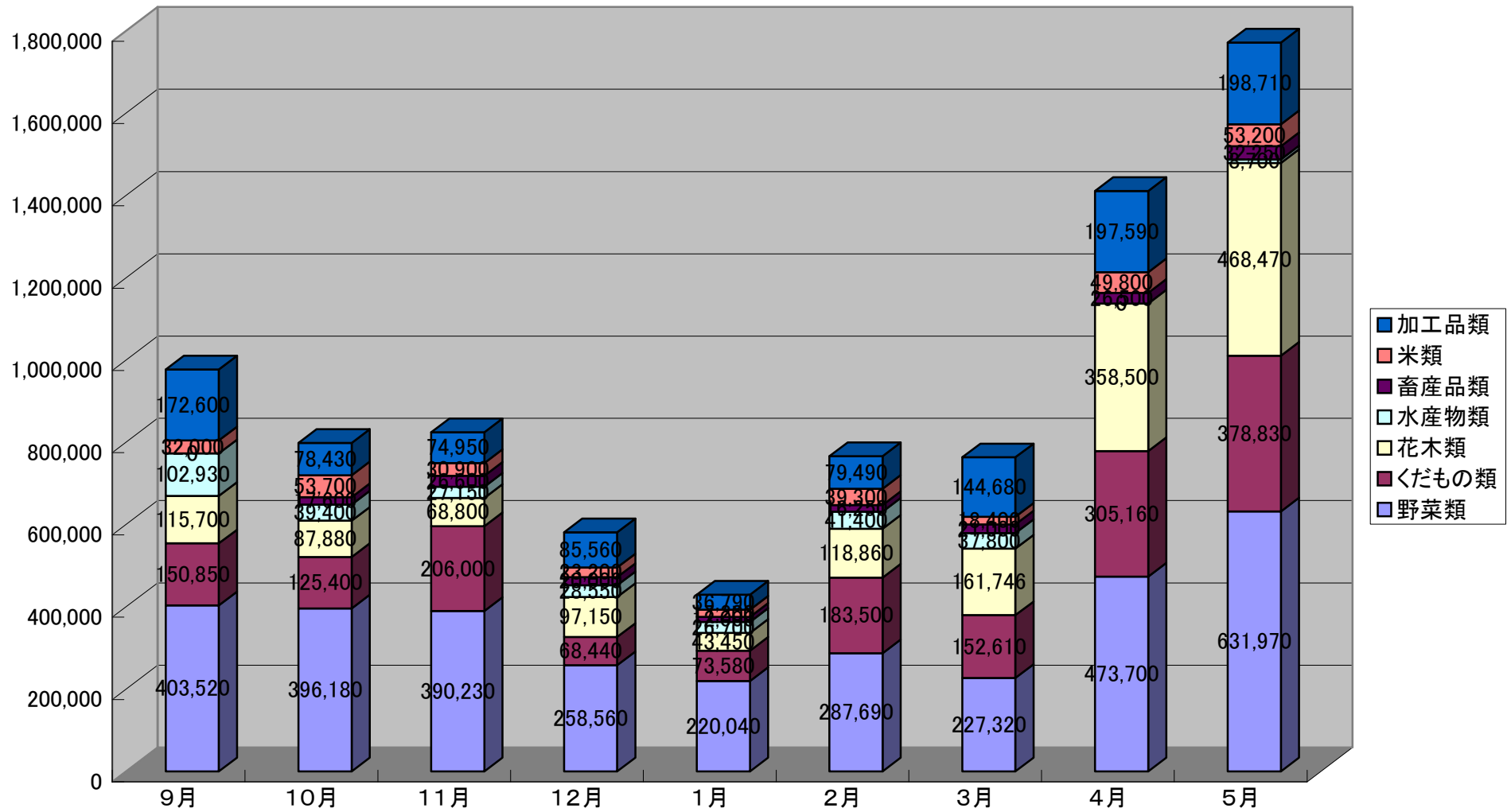
資料3-1

みずほ農産物直売所月別売上・来場者数



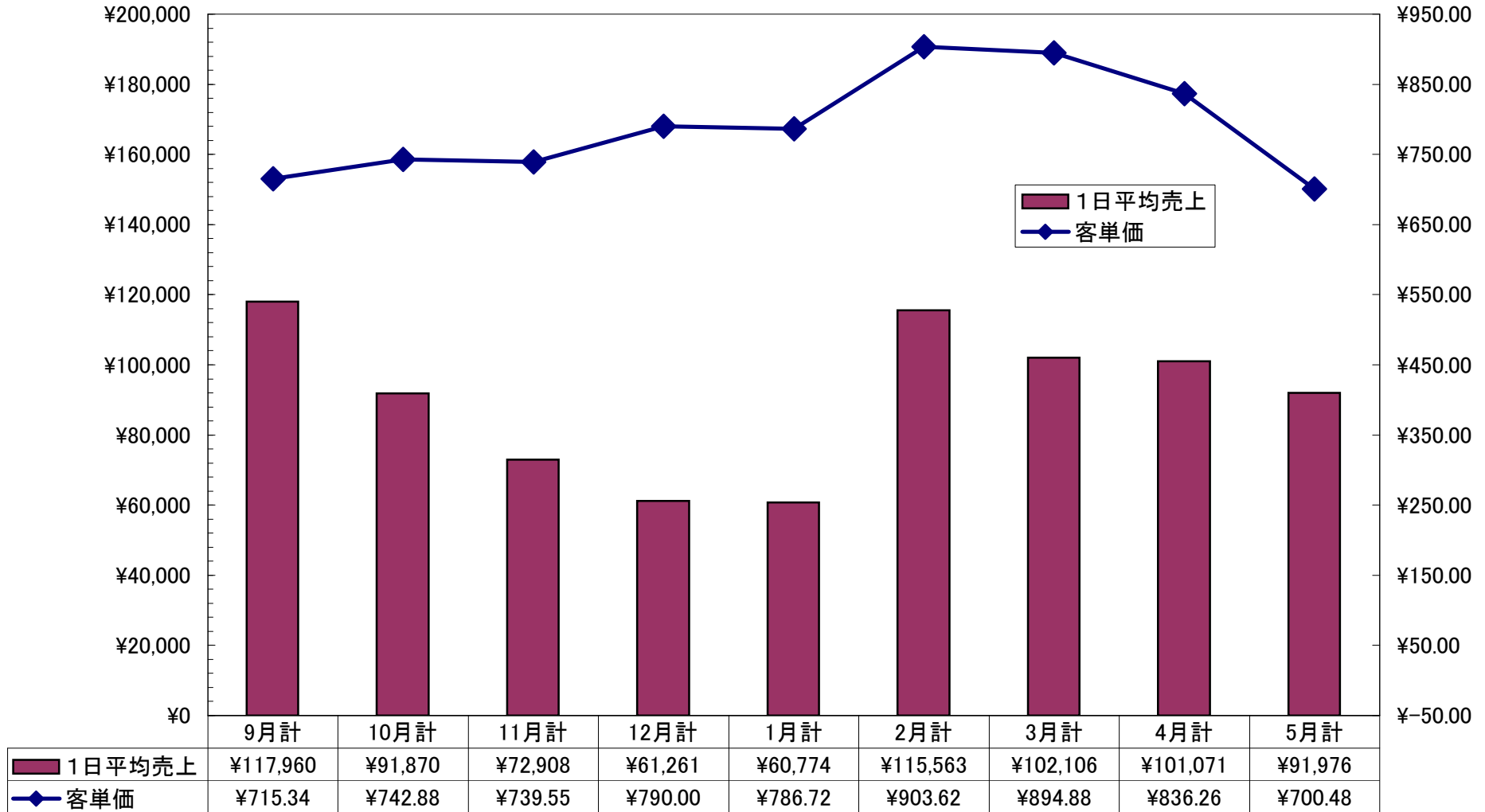
資料3-2

月別販売額一覧



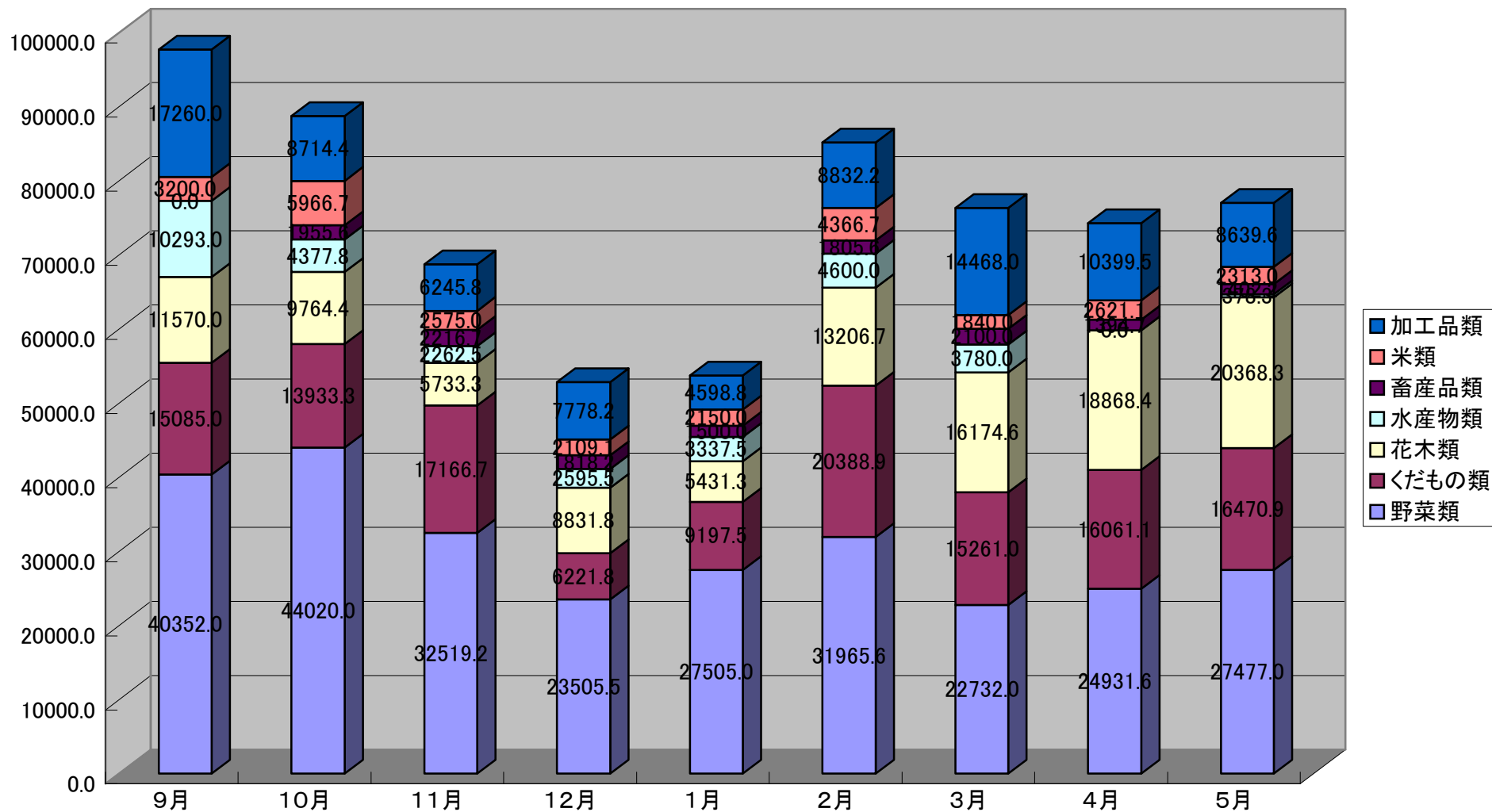
資料3-3

みずほ農産物直売所1日平均売上・客単価(月別)



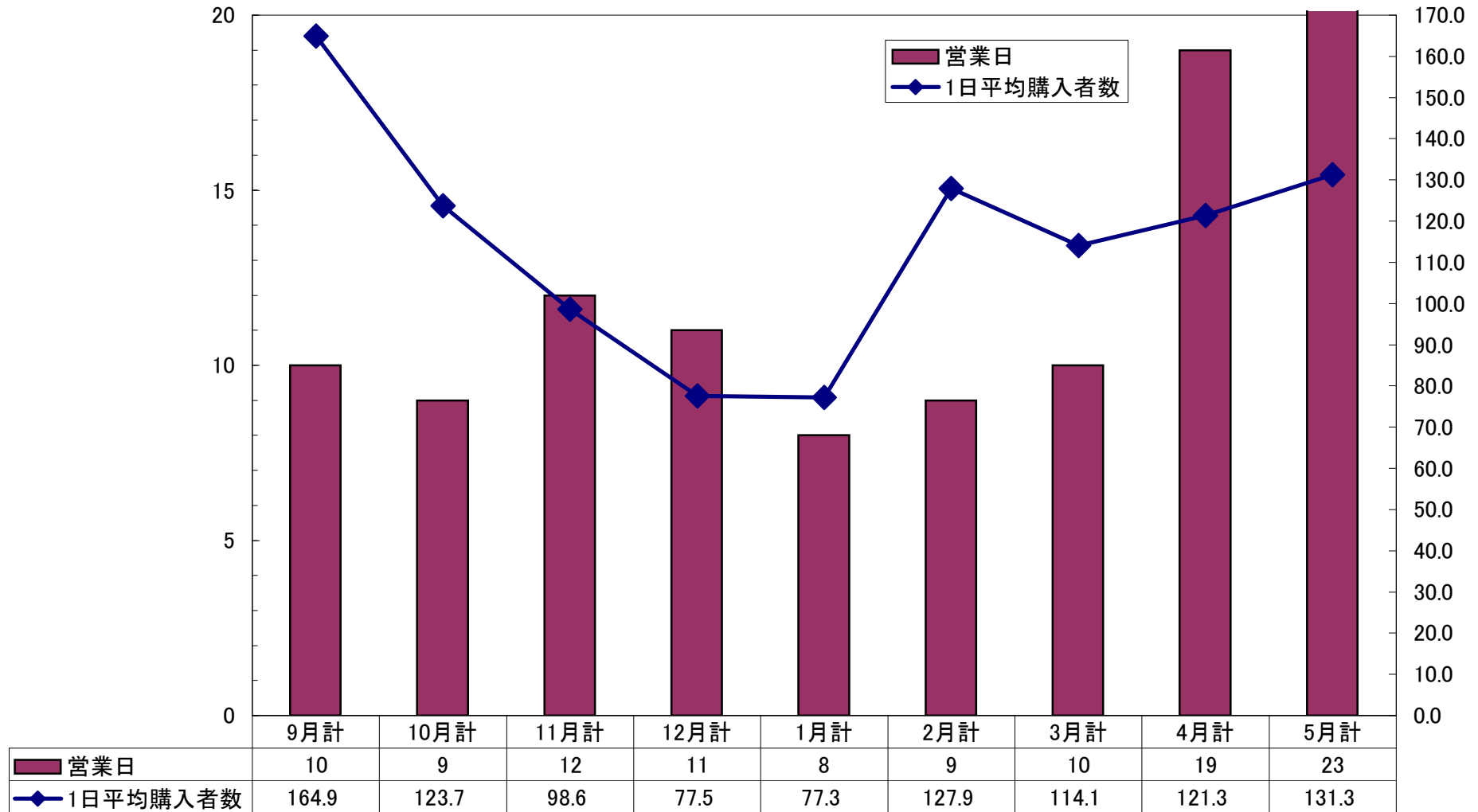
資料3-4

月別販売額(日割)



資料3-5

みずほ農産物直売所営業日数・平均購入者数(月別)



資料3-6

月別販売額(花木類)

